

プレスリリース

2011年5月10日

特定非営利活動（NPO）法人日本スペースガード協会
はやぶさ地球帰還1周年記念講演会実行委員会

各 位

はやぶさ地球帰還1周年記念講演会について

拝啓

昨年6月13日19時51分（日本時間）、小惑星探査機「はやぶさ」が地球に帰還しました。もうそれから1年の月日が流れました。あの晩、帰還を生中継するTV局はありませんでした。しかし、はやぶさの偉業が多くメディアに伝わると、その背後にあった数々のドラマチックな出来事とともに、大きな感動を呼び、人々の記憶に長く刻まれることとなりました。永遠不滅のものとなったのです。この1年間はやぶさが新たな伝説に昇華する時間だったと言えるでしょう。

われわれは「帰還1周年記念講演会」をその集大成、つまり歴史的節目と位置づけます。おりから、日本は未曾有の大地震と津波の被害、そこから引き起こされた原発事故に苦しめられています。はやぶさの偉業はこのような日本と日本人に、けっして諦めない勇気を与えてくれると確信します。

本講演会は、はやぶさに強い関心を抱く方のみならず一般の人達にも、はやぶさの偉業と物語を知っていただくことを目的にしています。周知にご協力頂ければ幸甚です。

敬 具

主催 日本スペースガード協会、学校法人三輪田学園

協力 JAXAはやぶさプロジェクト

後援 天文教育普及研究会、日本プラネタリアム協議会、はやぶさ大型映像制作委員会、月惑星研究会、
ライブ！ユニバース

日時 2011年6月12日（日曜） 午後1時—5時

場所 三輪田学園中高等学校講堂

定員 一般対象500人（参加無料）

参加申込方法

講演会へは事前申し込みが必要です。

①氏名 ②住所 ③連絡先電話番号 ④同伴者氏名 ⑤参加者の所属（小学生、中学生、高校生、大学生、一般、その他 のどれか）を明記のうえ、「はやぶさ帰還1周年記念講演会参加希望」として次のいずれかの方法でお申し込みください。確認のメール、はがきまたは電話で折り返し連絡し、申し込み完了をお知らせします。

電子メールの場合

hayabusa@spaceguard.or.jp へメールで申し込み下さい。

往復はがきの場合

〒151-0073 東京都渋谷区笹塚1丁目60番地7号 2F 日本スペースガード協会 はやぶさ講演会係 宛にお送り下さい。

ファックスの場合

FAX 03-6416-0990 へお送り下さい。

プログラム

- 12:00 開 場 (受付開始)
- 13:00-13:10 開会「はやぶさ帰還1周年によせて」 高橋典嗣 (日本スペースガード協会理事長)
- 13:10-13:20 「はやぶさ打ち上げから帰還までのエピソード」
細田聡史 (JAXA 月惑星プログラムグループ)
- 13:20-14:00 『はやぶさ』から『はやぶさ2』へ：小天体探査の意義と今後の展望」
吉川 真 (JAXA 宇宙科学研究所准教授・はやぶさプロジェクトサイエンティスト)
- 14:00-14:05 (会場設営)
- 14:05-14:45 パネルディスカッションテーマ「はやぶさ物語と日本人の心」
座長： 田部一志 (日本スペースガード協会理事)
パネリスト：小笠原雅弘 (NEC 航空宇宙システム)
春日 了 (プラネターリアム銀河座、證願寺住職)
永山悦子 (毎日新聞 科学環境部 記者)
- 14:45-15:00 休 憩
- 15:00-15:10 『Hayabusa Back To The Earth』の制作」 上坂浩光 (本作品の監督)
- 15:10-16:00 「Hayabusa Back To The Earth」上映
- 16:00-16:55 『はやぶさ』が挑んだ人類初の往復の宇宙飛行、その7年間の歩み」
川口淳一郎 (JAXA 宇宙科学研究所教授・はやぶさプロジェクトマネージャー)
- 16:55-17:00 閉会の辞 古宇田亮一 (独立行政法人産業技術総合研究所)

関連するURL

- 本講演会ホームページ <http://libra-co.com/syunen/>
- 日本スペースガード協会 <http://www.spaceguard.or.jp/>
- 学校法人三輪田学園 <http://www.miwada.ac.jp/>
- JAXAはやぶさプロジェクト http://www.jaxa.jp/projects/sat/muses_c/index_j.html
- Hayabusa Back To The Earth <http://www.live-net.co.jp/hayabusa-movie/>

本件に関する連絡先

日本スペースガード協会

事務局長 浅見敦夫 Tel 03-3378-6450 Fax 03-6416-0990 info@spaceguard.or.jp

151-73 東京都渋谷区笹塚 1-60-7 2F 日本スペースガード協会事務局

高橋典嗣

日本スペースガード協会理事長

日本スペースガード協会は、1996年10月20日に発足しました。発足前は、小惑星の観測・軌道進化等を研究する天文学者グループと、小惑星を将来の資源と位置づけて研究する宇宙工学者グループが、合同で研究会を開催していました。しかし、学問的にも、また社会的にも関心の高まってきた小惑星の衝突問題に関して、研究者のコミティを越えた議論を踏まえながら、観測や研究をするべきであるとの認識に立ち、一般の人にも呼びかけて発足したのが、当協会です。

小惑星地球衝突問題について、少しでも多くの方々に正しい認識を持っていただくために、講演会やスペースガード探偵団（教育活動）の開催、ASTEROID（機関誌）の発行、書籍の出版などを通して啓発活動に力を入れ、現在では400人をこえる会員にご参加いただいで活動しています。

こうした活動の成果が実を結び、地球に接近する天体を探索する専門の観測施設、「美星スペースガードセンター」が世界に先駆けて岡山県井原市美星町に完成しました。ここで、1m望遠鏡と50cm望遠鏡を用い、将来に衝突の可能性がある小惑星を全て見つけ出すことを目標に、6名の観測員が毎夜観測を行っています。これまでに、地球近傍小惑星20826番（仮符号2000UV13、2000年10月21日）、2007YZ（2007年12月18日）やBATTERS彗星（2001年11月21日）を発見、毎年約300個の小惑星を発見し、仮符号を取得しています。

最近の太陽系科学の進歩によって、地球の誕生や現在の地球を取り巻く宇宙環境、小惑星衝突については、非常に多くのことがわかってきました。その結果、天体の衝突現象は決して珍しいことではなく、地球を含む太陽系の発達進化において、むしろ主要な役割をはたしてきとことも、研究者の共通の認識となっています。

小惑星衝突は、何十万年に1回しか起こらないのですが、一度起こると最大規模の自然災害となり、人類社会全体に多大な被害が及ぶ可能性があります。また、地震、火山、洪水等と違い、観測されてさえいれば、軌道から確実に衝突や被害状況を予測することができます。従って、地球環境を取り巻く宇宙から忍び寄る最大級の自然災害は、地球に接近する天体の詳細なサーベイによる早期発見が最も大事であるということが出来ます。また、地球規模の防災の観点からも、小惑星衝突が起きた場合の被害状況等を科学的に正しく理解しておくことが重要です。

当協会は、地球を護るために、このような天体の探索、研究、そして科学的情報の啓発活動を行っています。地球を護るための活動のさらなる充実と、スペースガードに関する活動に際し、皆様方の一層のご支援とご協力をお願い致します。